

## 駅型保育所の利用実態と利用者評価に関する研究(第2報)

○東海林 史子\*      瀬渡 章子\*\*      田中 智子\*\*      横森由希子\*<sup>3</sup>

(\*奈良女大・院、\*\*奈良女大、\*<sup>3</sup>東陶機器株)

【目的】従来の地域の保育所とは異なり、駅型保育所は、利便性の高い駅前に立地することから、送迎担当者や送迎手段、保育所と住宅および職場との位置関係に特色がみられると考えられる。その2では、保育所の送迎実態と利用者評価を中心に分析を行い、今後の駅型保育所のあり方について示唆を得ることを目的とする。

【方法】調査対象、調査方法はその1と同じ。

【結果】送迎担当者は、大部分が母親であり、父親やそのほかの家族が担当することは少ない。自転車やバスなどで保育所に来て鉄道で通勤するという方法が駅型保育所の送迎手段の典型であり、もっとも多い。鉄道で通勤しているが途中下車して保育所に立ち寄る事例も多い。保育所によっては鉄道ではなくマイカーを利用するものもみられた。送迎担当者の勤務時間や通勤時間が長いものもあり、保育時間が長いことによって利用を可能にしている。いずれの場合も鉄道駅に近いことと保育時間が長いことは高く評価されている。園庭がないことや保育料が高いことについては強い不満を持っている。保育料の引き下げや駐車スペースを作ることに對して改善希望がみられた。